

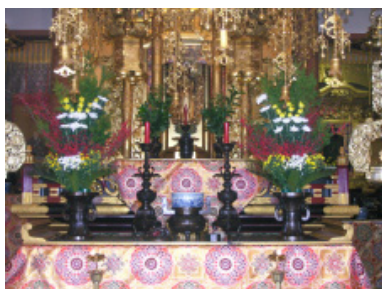
門徒・僧侶の力を結集

# おとりこし・ご正当報恩講つとまる



(写真上) 三津田支坊のお齋。材料はご門徒のご報謝でまかなわれています。

(写真右) 初登場！三津田支坊のお世話人さんです。私たちが作っています。ちなみに、三津田支坊のお齋は参詣者に無料接待です。



(写真上) 立派なお仏花（今年は梅もどきを使いました）は古江さんが生けてくださいます。白黒なのが残念。



溝掃除のご報酬（小田原さん）



何日も通って鑿定（倉田さん）

佐藤光子さんは、社会福祉法人「かしの木」の総合施設長。本願寺派僧侶でもあり、西教寺のご門徒でもある。共にお念仏にお育ていただく者として、佐藤さんの「かしの木」創設に関わる思いをお聞かせ頂こうと、蔵本通支坊のおとりこし中、特別講話として、お話しして頂いた。私の父は、ご法義で「親鸞さま

## 特別講話 佐藤光子さん 「障害者とともに」



がライフワーク」を自認していた。朝晩お礼（仏さまにお参りすること）を欠かさず、祖父母・兄弟・叔父叔母の月命日には、お坊さんをお招きして、私はご法話を聞かされ、その日は朝から精進、きびしく育てられた。私が二十八歳で父が発病、亡くなるまでの二年半、たくさんのことを教わった。痛いはずなのに口を開くとお念仏。私が尋ねると「確かに痛い、辛いけど、一日これ以上のことはなかった」「雨ほどもらったら露ほど返せ」等々、色々なことを教えてくれた。

四十才を前にして、私は自分の人生を振り返ってみて、何もしていないことに気がついた。父や親戚が教師だったご縁もあつて教師になった。卒業後、仕事が長続きしない教え子のために十三年間レストランをした。引きこもりや不登校の子どもも、ここをご縁に社会に旅立ってくれた。始めて十年目に社会福祉事業のご縁を頂戴した。「雨ほどもらったら露ほど返せ」と教えてくれた父や親族に導かれて決断。しかし逆だった。「私が育てられていた」というのが偽りのない正直な気